

森づくり塾 入門基礎研修

【入門編】

樹木分類実習



オオシマザクラの花



ニワトコの花



クロモジの花枝



ミツバツツジの花



リョウブの花枝



エノキの果実



ミズナラの果枝



ナツツバキの幹



クサギの果実



ムラサキシキブの果実

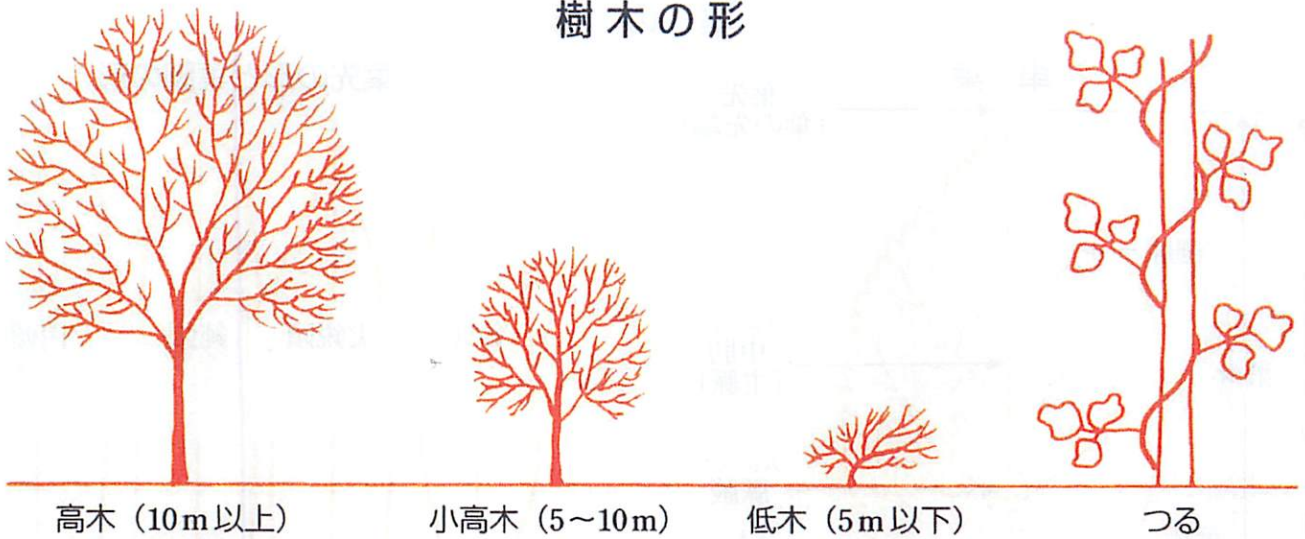


シラカバの樹形

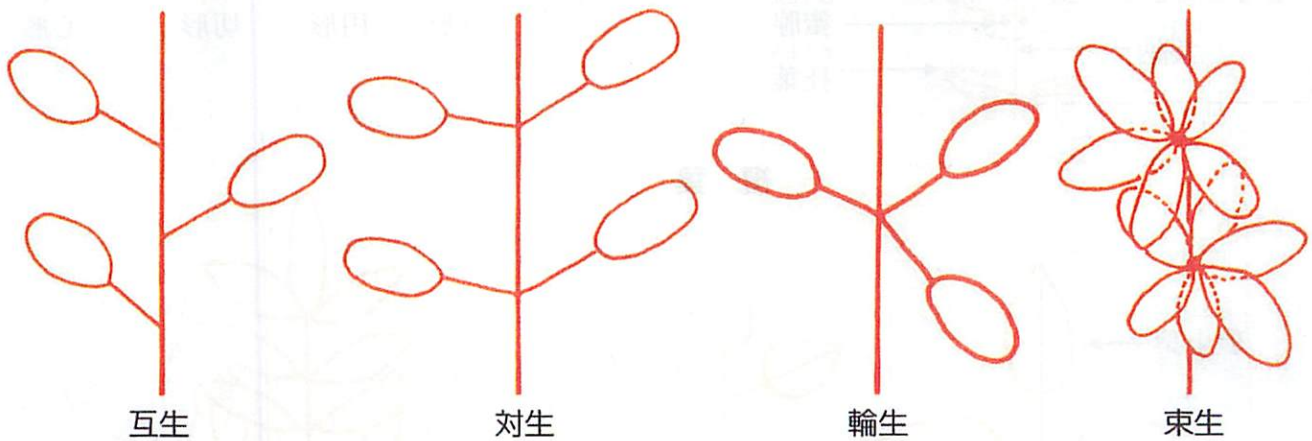
研 修 資 料

(平成30年6月3日)

樹木の形



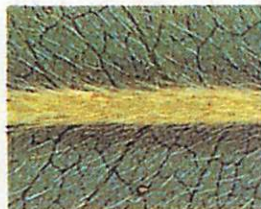
葉のつき方



毛の形 (写真は5倍に拡大)



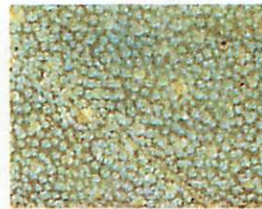
腺毛
バイカツツジ



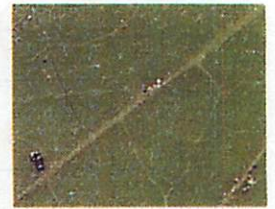
伏毛
ミヤギノハギ



短毛
ネジキ



鱗毛
アキグミ



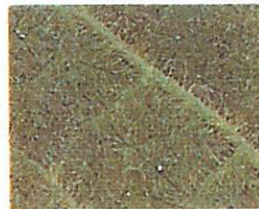
星状毛
ウツギ



絹毛
イヌブナ



綿毛
ギンドロ



軟毛
キンギンボク



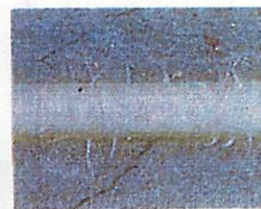
脈腋毛束
ツタウルシ



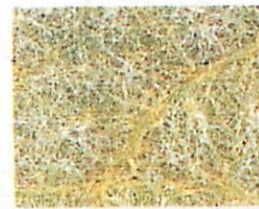
縮毛
ザイフリボク



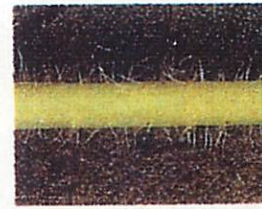
硬い毛
サルナシ



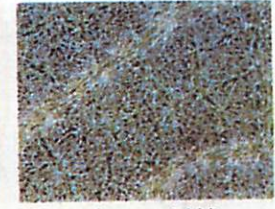
粗毛
ツタ



くも毛
ヤマブドウ

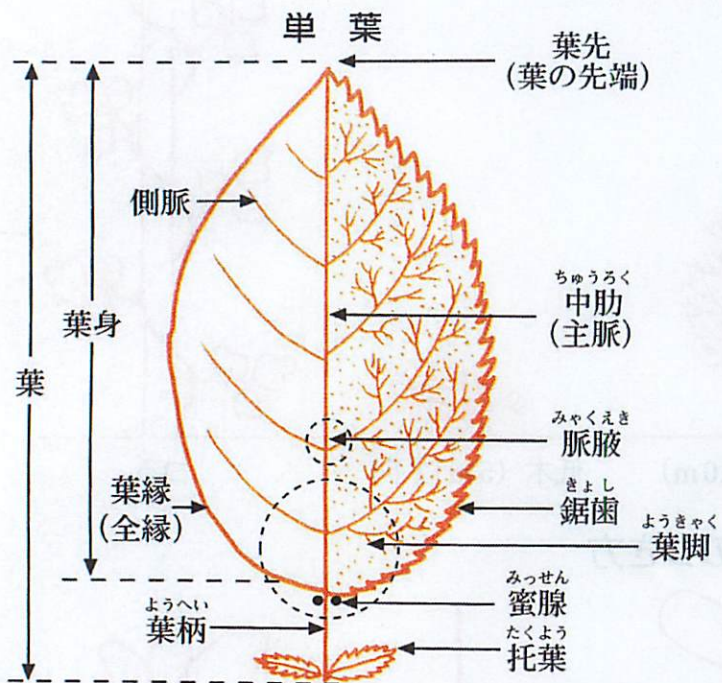


開出毛
カンボク

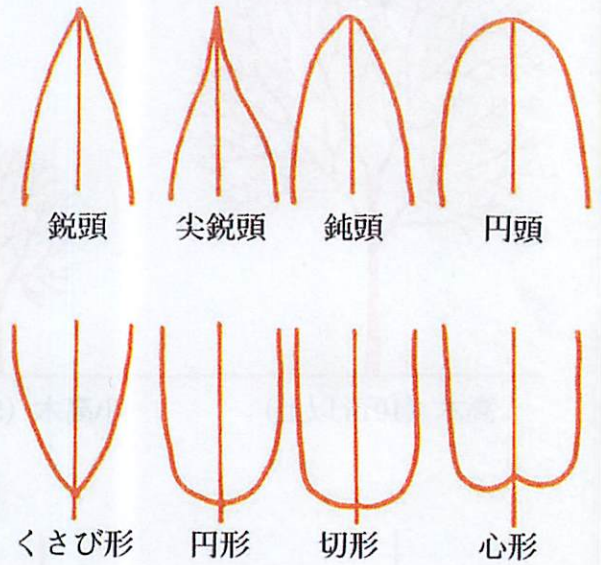


ビロード状
キーウィ

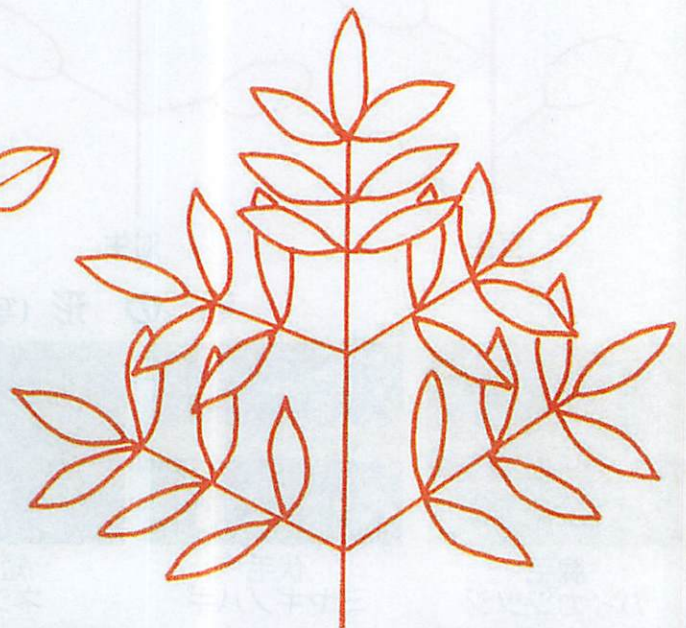
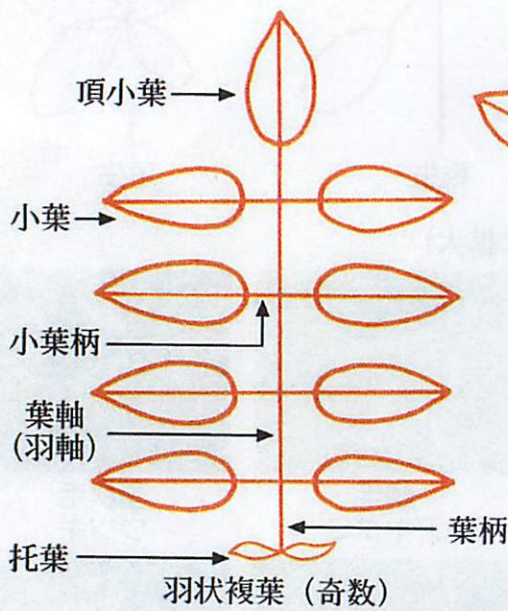
葉の形



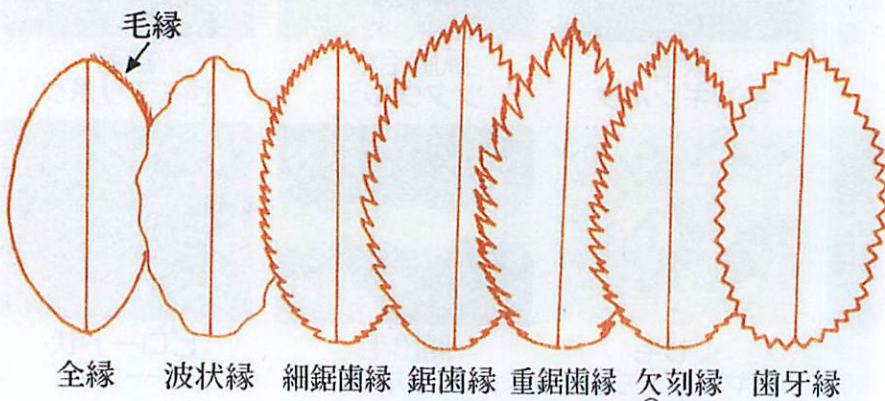
葉先の形と葉脚の形



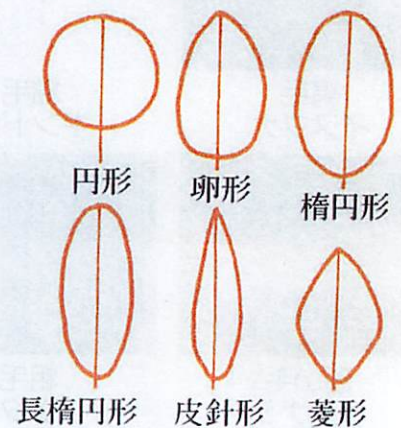
複葉



葉縁の形

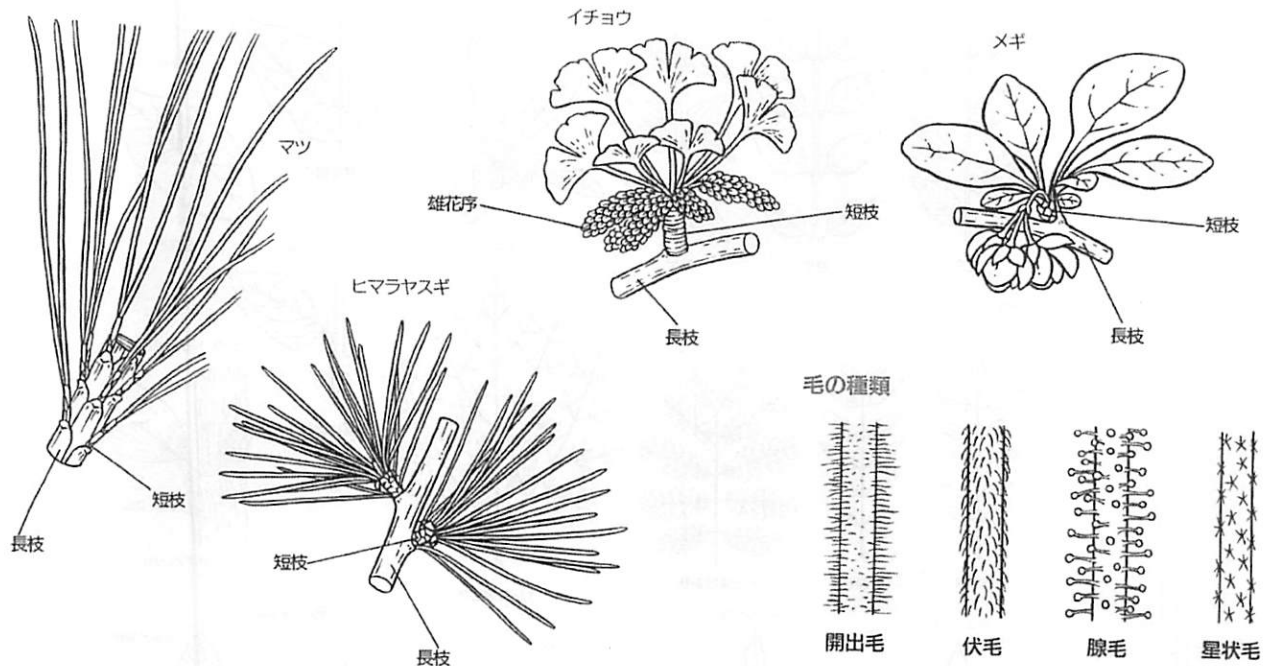


葉の形

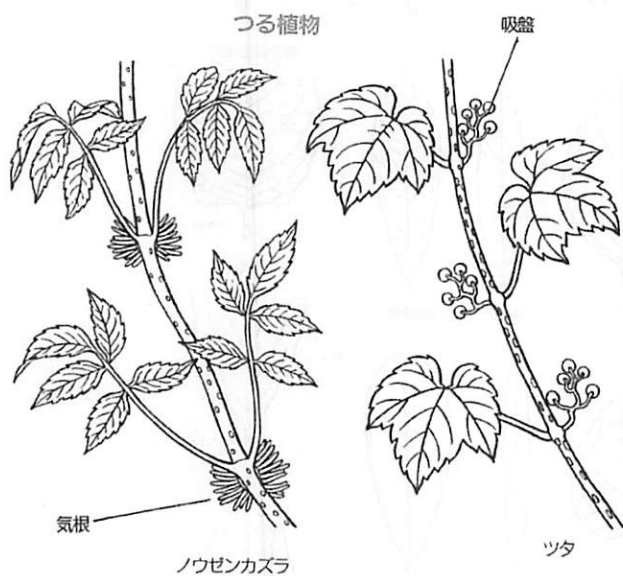


葉のつく枝のようす

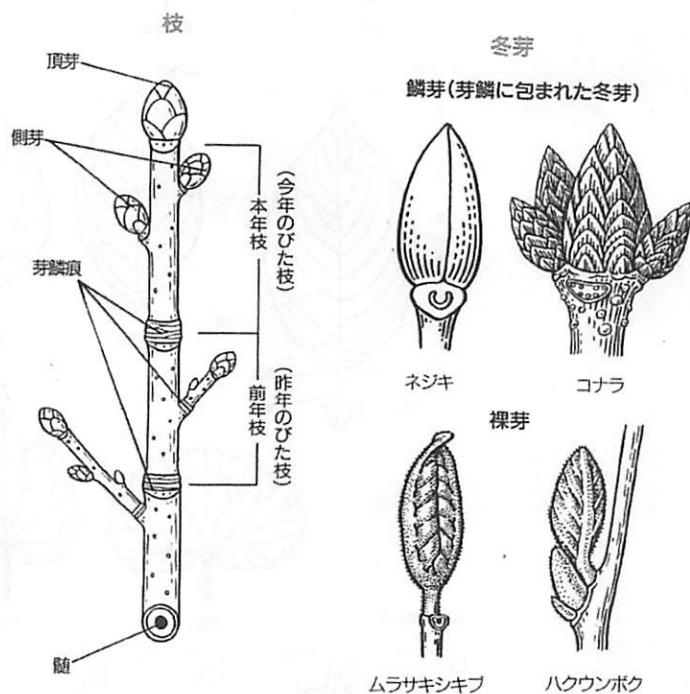
長枝と短枝



つるのようす

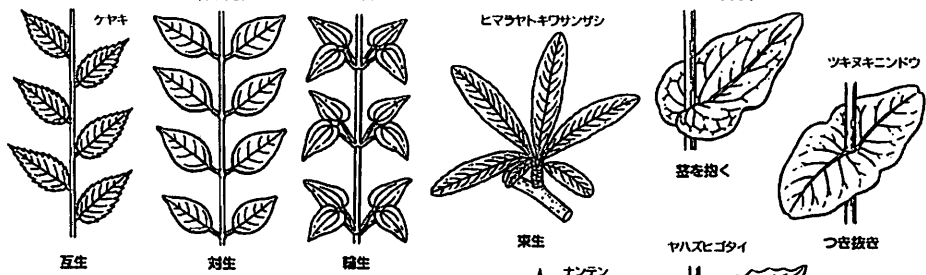


枝の成長と冬芽

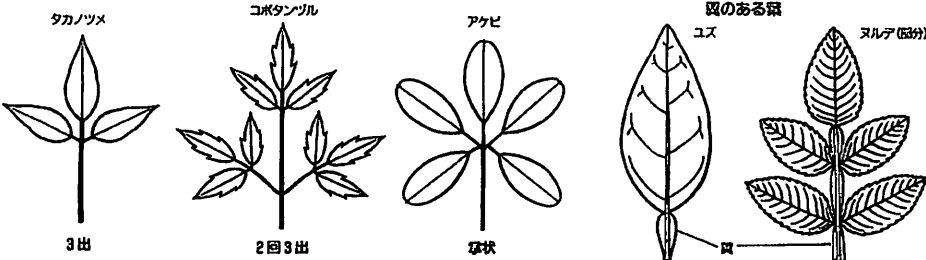
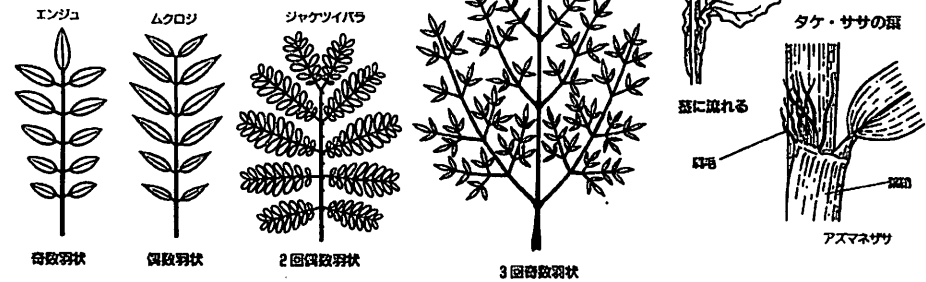


葉のようす

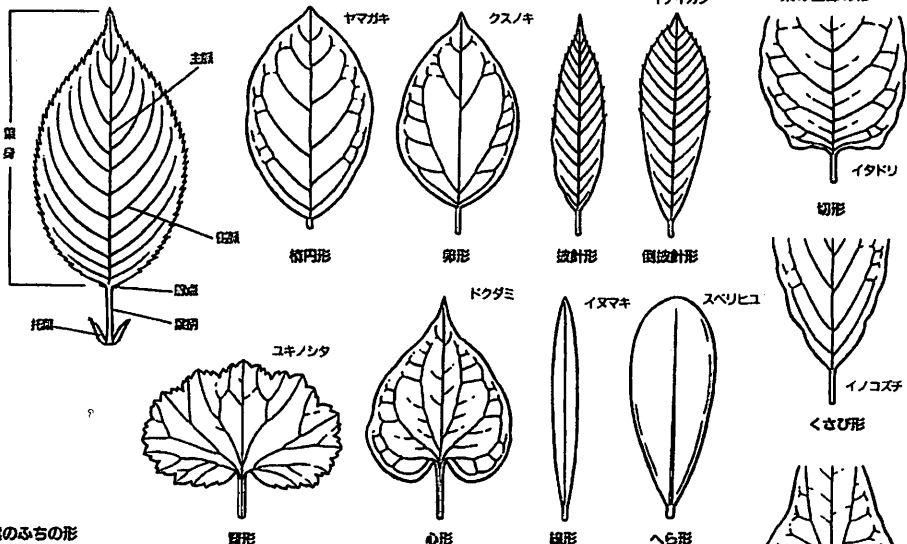
葉のつき方



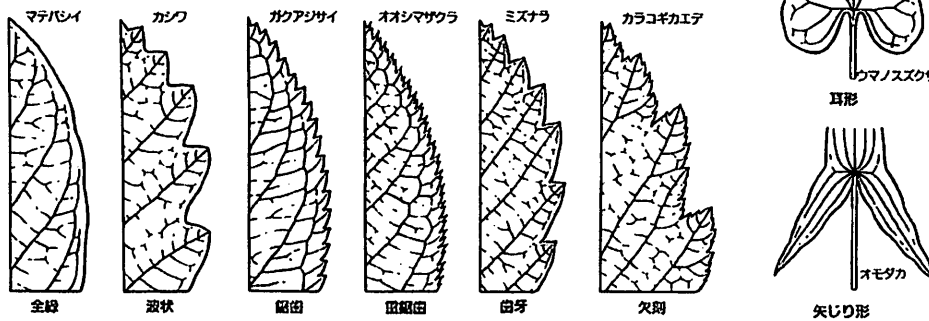
切葉



葉のつくり

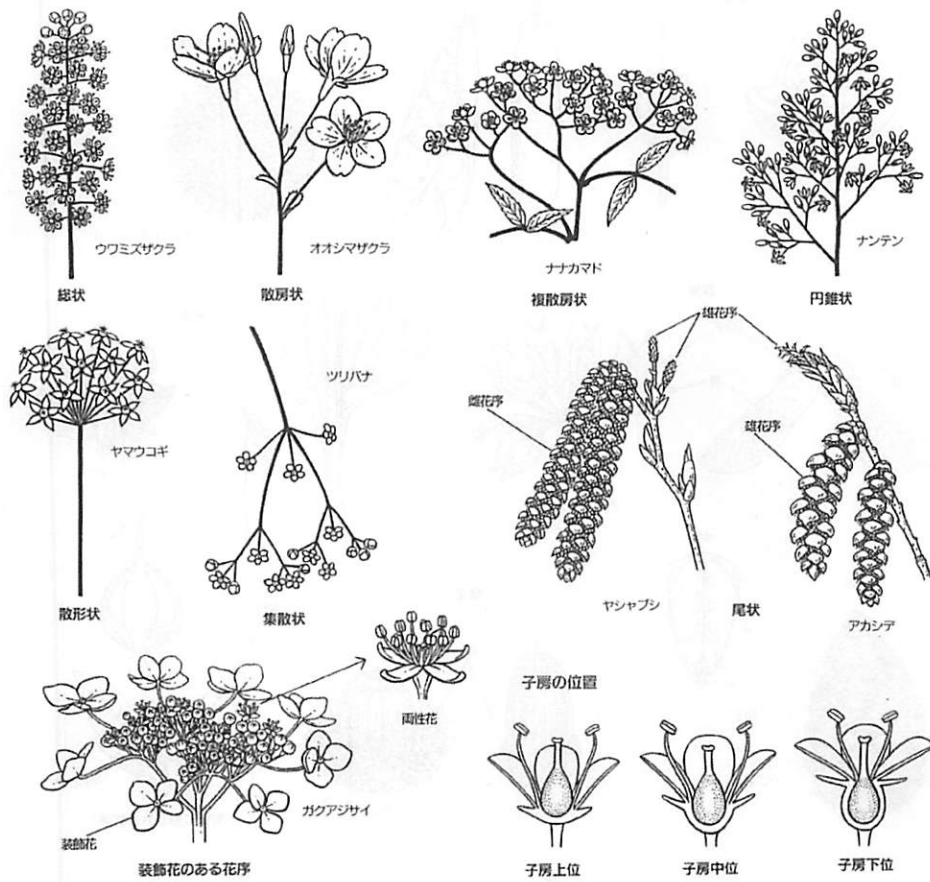


葉のふちの形

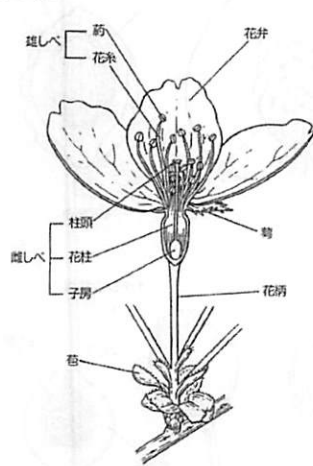


花のようす

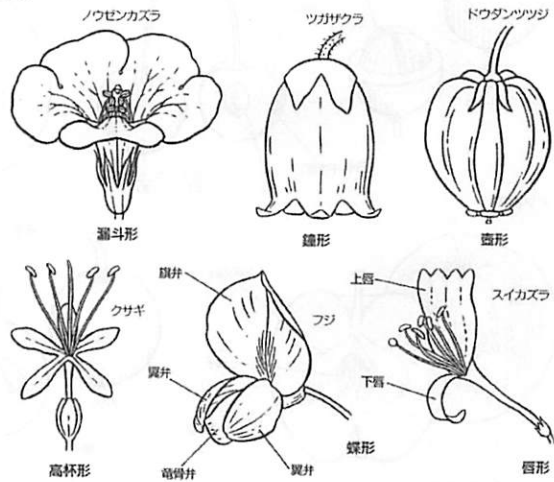
花序の形



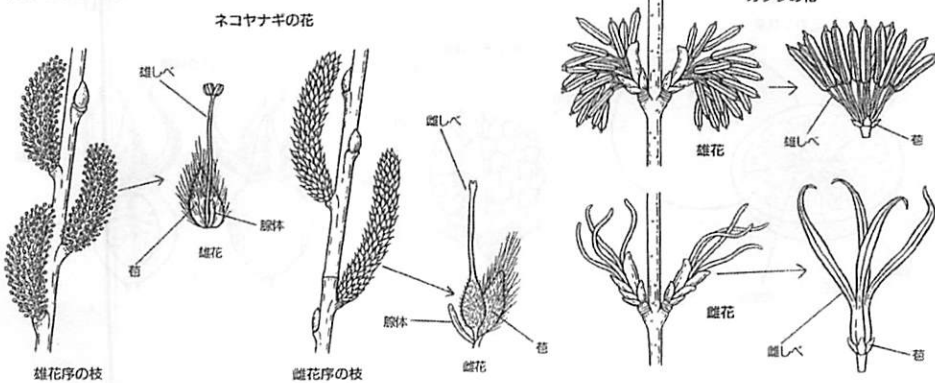
花のつくり



花の形

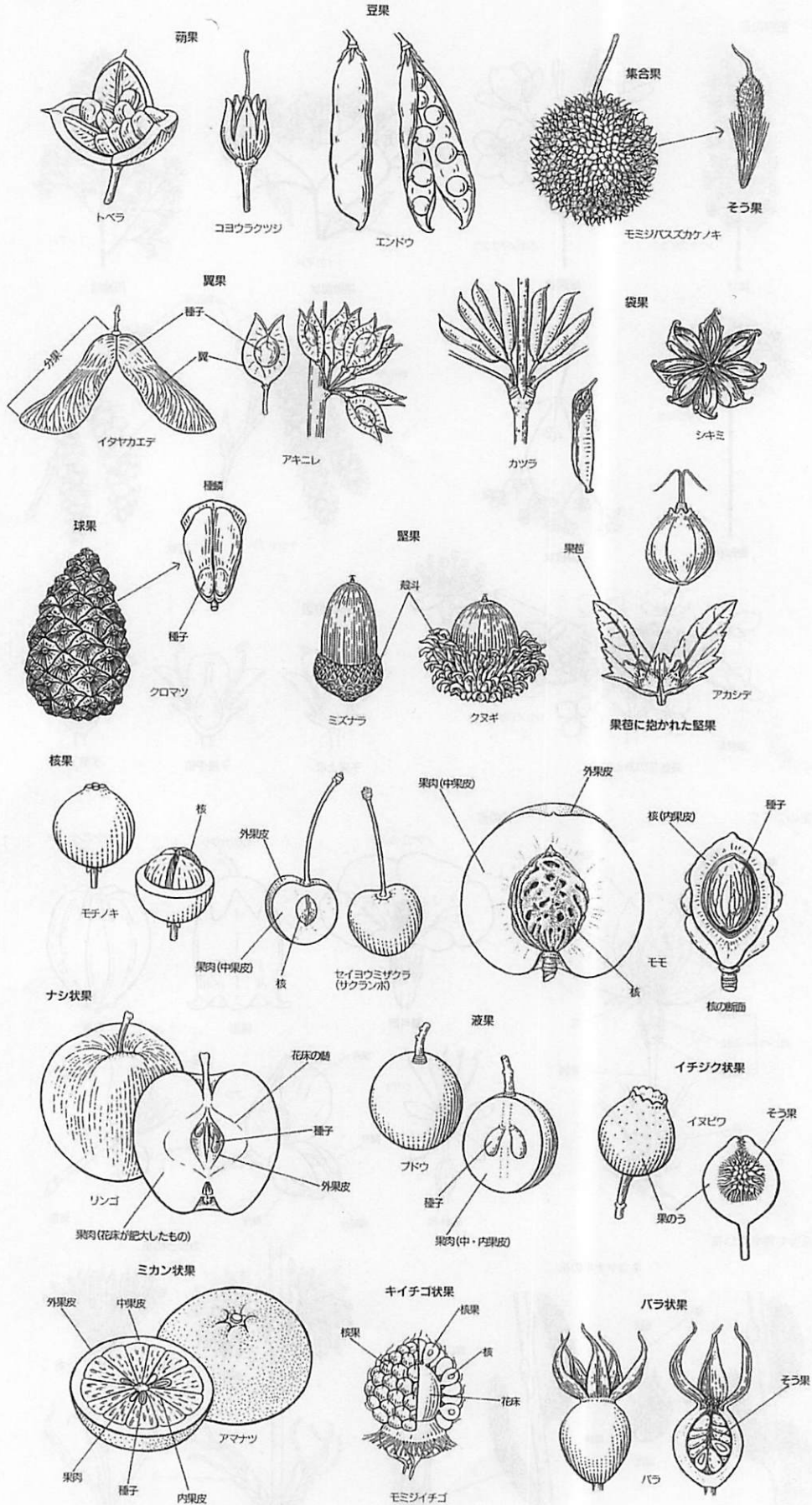


花弁も萼もない花



実のようす

果実のいろいろ



森づくりのための樹木学 立山町吉峰地内の里山樹木リスト

番号	樹 木 名	科 名	葉・樹高	特 徴 な ど
1	スギ	スギ科	常緑高木	大半は植栽木であるが、富山では天然スギの分布も見受けられる。
2	(ヒノキ)	ヒノキ科	常緑高木	葉裏に白色のY字型の気孔群あり。富山では植栽木が多い。
3	(サワラ)	ヒノキ科	常緑高木	葉裏に白色の蝶の羽型の気孔群あり。
4	アスナロ	ヒノキ科	常緑高木	葉は十字対生で鱗片状。葉裏に白色の舟形の気孔群あり。
5	アカマツ	マツ科	常緑高木	冬芽の鱗片は赤褐色。富山では山地帯に多。
6	(クロマツ)	マツ科	常緑高木	冬芽の鱗片は灰白色。富山では海岸に多い。
7	モミ	マツ科	常緑高木	一年枝に濃褐色の毛あり。富山ではトガと呼ぶ地域有り。
8	コナラ	ブナ科	落葉高木	ドングリの木。標高600m以下の丘陵帯に多い。葉柄は1cm程度。
9	ミズナラ	ブナ科	落葉高木	ドングリの木。標高600m以上の山地帯上部に多い。葉柄は0.3cm程度。
10	クリ	ブナ科	落葉高木	シバグリ。葉縁の針状の突起は緑。
11	(クヌギ)	ブナ科	落葉高木	人工植栽木。葉縁の針状の突起は淡黄褐色。葉裏は淡緑色。
12	(アベマキ)	ブナ科	落葉高木	人工植栽木。葉縁の針状の突起は淡黄褐色。葉裏は粉白色。
13	ブナ	ブナ科	落葉高木	山地帯上部に分布。葉裏の葉脈上にもみ毛あり。側脈は7～11対
14	ウラジロガシ	ブナ科	常緑高木	2年でドングリ実る。枝灰白色。葉裏は蠟灰白色。
15	エノキ	ニレ科	落葉高木	葉縁の上半分にのみ鋸歯あり。国蝶オオムラサキの幼虫の食採木。
16	ケヤキ	ニレ科	落葉高木	葉は、左右不対象。庭木から河岸段丘まで多し。
17	コブシ	モクレン科	落葉高木	丘陵地帯から山地帯。花下に葉ある。葉は被針形。
18	タムシバ	モクレン科	落葉高木	山地帯上部。花下に葉なし。葉は倒卵形。
19	ホオノキ	モクレン科	落葉高木	花香る。大きな葉が枝先に集中。適潤で肥沃な林地好む。
20	カツラ	カツラ科	落葉高木	沢筋に多い。葉は対生。葉脚は心形。枯葉は香ばしい香り。
21	オオバタロモジ	クスノキ科	落葉低木	葉縁は全縁。枝は蠟状で円滑、切断すると芳香。
22	ダンコウバイ	クスノキ科	落葉低木	葉は、チューリップの花or恐竜の足跡の形。
23	シロダモ	クスノキ科	常緑小高木	葉の基部から3主脈。葉裏面は灰白色で毛多し。
24	ナツツバキ	ツバキ科	落葉高木	サルスベリのような円滑な幹。6～7月に白い花。
25	ユキツバキ	ツバキ科	常緑低木	多雪地帯の山地帯。背丈低い。葉表に網状の葉脈目立つ。
26	(ヤブツバキ)	ツバキ科	常緑高木	丘陵帯に多い。葉表に網状の葉脈目立つ。
27	ヒサカキ	ツバキ科	常緑小高木	サカキの代用品。葉縁に細かい鋸歯。葉腋に白花が束生。黒紫の実。
28	ソヨゴ	モチノキ科	常緑小高木	葉縁は全縁。葉の側面は波打って見える。赤い実が垂れ下がる。
29	ハイイヌツゲ	モチノキ科	常緑低木	イヌツゲの日本海型。葉裏に灰黒色の腺点がある。白花、黒い実。
30	アオハダ	モチノキ科	落葉小高木	葉が短枝に束生が特徴。葉裏テカテカと光る。
31	コマユミ	ニシキギ科	落葉低木	葉・枝は対生。枝にコルク質の翼があればニシキギ。
32	マルバマンサク	マンサク科	落葉小高木	マンサクの日本海型。葉の上1/3は半円形。ネソの木。
33	ウワミズザクラ	バラ科	落葉高木	葉柄基部に密腺。花は総状花序。葉縁は鋭い鋸歯。
34	エドヒガン	バラ科	落葉高木	葉脚基部に密腺。葉は長楕円形。葉裏は葉脈上に毛。

番号	樹 木 名	科 名	葉・樹高	特 徴 など
35	オオシマザクラ	バラ科	落葉高木	葉柄上部に密腺。葉は倒卵形。葉裏は無毛。
36	ソメイヨシノ	バラ科	落葉高木	葉柄上部に密腺。葉は倒卵形。葉裏は葉脈上に毛。
37	(カスミザクラ)	バラ科	落葉高木	葉柄上部に密腺。葉は倒卵形。葉裏は光沢ある淡緑色。
38	(ヤマザクラ)	バラ科	落葉高木	葉柄に密腺。葉は倒卵形。葉裏は灰白緑色。
39	(オオヤマザクラ)	バラ科	落葉高木	葉柄に密腺。葉は倒卵形。葉裏は粉白緑色。山地帯上部。
40	キンキマメザクラ	バラ科	落葉小高木	葉は3~4cm程度の小さな葉。重鋸歯。
41	モミジイチゴ	バラ科	落葉低木	別名キイチゴ。葉裏の葉脈上にトゲがある。
42	ナナカマド	バラ科	落葉高木	奇数羽状複葉。葉の表裏面とも無毛。
43	ナンキンナナカマド	バラ科	落葉低木	奇数羽状複葉で葉柄の基部に托葉あり。葉の裏面葉脈沿いに毛。
44	アズキナシ	バラ科	落葉高木	葉は短枝に束生。葉脈は平行線ではっきりと目立つ。
45	ウラジロノキ	バラ科	落葉高木	葉の形・付き方はアズキナシそっくりだが、葉裏が真白。
46	イヌエンジュ	マメ科	落葉高木	奇数羽状複葉。葉裏に毛が密生。
47	ハリエンジュ	マメ科	落葉高木	北米原産植栽木。別名ニセアカシア。奇数羽状複葉。葉脈上に少し毛。
48	アカメガシワ	トウダイグサ科	落葉高木	典型的な陽樹。葉裏に黄色の小さな腺体。
49	エゾユズリハ	ユズリハ科	常緑低木	葉は枝先に集まり、春先の新葉が代替わりをイメージ→代を譲る葉。
50	クサギ	クマツツラ科	落葉低木	葉に臭気あり。星形の白花→青紫の丸い実。葉裏の葉脈上に毛。
51	ムラサキシキブ	クマツツラ科	落葉低木	葉は対生。枝は斜上する。紫式部。花序は葉腋から出る。
52	イヌザンショウ	ミカン科	落葉低木	小葉は長さ1~4cm、葉の表面は光沢がある。
53	カラスザンショウ	ミカン科	落葉高木	小葉は長さ4~15cm
54	(サンショウ)	ミカン科	落葉低木	小葉は長さ1~4cm、葉の表面は光沢がない。
55	ニワウルシ	ニガキ科	落葉高木	中国北部原産。別名シンジュ。葉の下部に1~4対の大きな鋸歯あり。
56	ヤマウルシ	ウルシ科	落葉小高木	葉は奇数羽状複葉。幹の先のほうに葉が集まる。
57	ヌルデ	ウルシ科	落葉小高木	葉は奇数羽状複葉。ヤマウルシに似るが小葉主軸の両側にも葉あり。
58	ツタウルシ	ウルシ科	落葉蔓性本木	葉は3出複葉。若木の葉には、葉先に大きな鋸歯あり。
59	ツタ	ブドウ科	落葉蔓性本木	蔓に巻きひげがあり、先端に吸盤。幼時期は3出葉→5主脈葉。
60	ヒトツバカエデ	カエデ科	落葉高木	葉・枝は対生。丸い大きな葉。
61	ウリカエデ	カエデ科	落葉小高木	幹はだが瓜状。葉は長卵形。
62	ウリハダカエデ	カエデ科	落葉高木	幹はだが瓜状。葉はカナダ国旗の葉みたいな形。
63	ヤマモミジ	カエデ科	落葉高木	葉の表面は無毛。裏面には基部にのみ毛。果翼は斜め。
64	コハウチワカエデ	カエデ科	落葉高木	葉の表面に粗毛産生。葉裏は葉脈上に毛。今年枝に軟毛。
65	イタヤカエデ	カエデ科	落葉高木	カエル手の葉。葉縁は全縁。葉の表面無毛。
66	トチノキ	トチノキ科	落葉高木	葉は5~7枚の小葉からなる。谷筋に多い。
67	ハンノキ	カバノキ科	落葉高木	湿地に多い。葉は卵状長楕円形。木質の果穂。
68	シラカンバ	カバノキ科	落葉高木	短枝には2枚束生。側脈6~8対。(より高標地のダケカンバの側脈は7~12対)
69	ウダイカンバ	カバノキ科	落葉高木	短枝には2枚束生。葉脚は心形。別名マカハ。樹皮灰褐色。
70	ミズメ	カバノキ科	落葉高木	葉縁重鋸歯。短枝には2枚束生。別名ヨグ・ミネハリ、アズサ。サロメチル臭。

番号	樹 木 名	科 名	葉・樹高	特 徴 な ど
71	アカシデ	カバノキ科	落葉高木	葉脈が平行線で目立つ。葉脚は円形。
72	ゴンズイ	ミツバウツギ科	落葉小高木	葉は奇数羽状複葉で対生。葉の表面は光沢。
73	キブシ	キブシ科	落葉低木	早春に花が咲き、ブドウの房状の実が下垂する。
74	ヒメアオキ	ミズキ科	常緑低木	アオキの日本海型。2年で赤い実に熟成。葉縁に大きな鋸歯。
75	ミズキ	ミズキ科	落葉高木	陽樹系の樹。枝・葉互生。葉は枝先に集中。葉裏は粉白緑色。
76	クマノミズキ	ミズキ科	落葉高木	枝・葉は対生。葉裏は緑色。
77	ヤマボウシ	ミズキ科	落葉高木	葉裏の脈腋に黒褐色の毛が集まっている。葉脈が曲線を描いている。
78	タラノキ	ウコギ科	落葉小高木	2回羽状複葉。幹にトゲ多し。陽樹の代表。
79	コシアブラ	ウコギ科	落葉高木	葉は5枚の小葉からなる掌状複葉。葉などウドの臭い。
80	(タカノツメ)	ウコギ科	落葉高木	葉は3枚の小葉からなる掌状複葉。葉などウドの臭い。
81	リョウブ	リョウブ科	落葉小高木	幹肌はサルスベリ状。葉は枝の先端にやや集中。
82	ミツバツツジ	ツツジ科	落葉低木	葉が三菱状に並んで見える。(3輪生)
83	ヤマツツジ	ツツジ科	半落葉低木	朱赤色の花。楕円形の小さな葉。夏秋葉は春葉より小さく冬を越す。
84	ネジキ	ツツジ科	落葉小低木	幹がねじれている。
85	ハナヒリノキ	ツツジ科	落葉低木	葉の粉を鼻に入れるとクシャミ。有毒植物。葉縁は全縁だがごう毛有り。
86	アキシバ	ツツジ科	落葉低木	葉縁は細かい鋸歯がありその先端は腺毛になる。赤い実下垂する。
87	ナツハゼ	ツツジ科	落葉低木	葉縁は全縁で腺毛がある。黒褐色の実が並び食べれる。
88	ヤブコウジ	ヤブコウジ科	常緑小低木	林床に群生。赤い実が下垂。
89	エゴノキ	エゴノキ科	落葉高木	葉は卵形。星状の白花が下垂し、灰白色の実下垂。果皮にゴサボニン(石けん・麻酔効果)
90	タンナサワフタギ	ハイノキ科	落葉低木	広倒卵形の葉。葉縁は鋸歯が粗い。実は藍黒色。(タンナとは済州島のこど)
91	マルバアオダモ	モクセイ科	落葉小高木	葉は奇数羽状複葉で対生。葉縁はほぼ全縁。5月頃房状の白い花がよく目立つ。
92	ニワトコ	スイカズラ科	落葉低木	葉は奇数羽状複葉で対生。骨折・打ち身の和漢方薬？(別名接骨木)
93	コバノガマズミ	スイカズラ科	落葉低木	葉は対生し、表裏とも毛が多い。
94	ガマズミ	スイカズラ科	落葉低木	葉は対生し、枝・葉柄に密に毛。
95	ミヤマガマズミ	スイカズラ科	落葉低木	葉は対生し、表面はしばしば光沢する。枝に毛が散生。
96	オオカメノキ	スイカズラ科	落葉小高木	葉は対生。大きな丸い葉。大亀の木。別名ムシカリ
97	タニウツギ	スイカズラ科	落葉低木	日本海側に多い。朱い花。
98	ノリウツギ	ユキノシタ科	落葉低木	白い花(萼)。葉裏の脈腋に毛集中。枝切ると糊状繊維。
99	ウツギ	ユキノシタ科	落葉低木	白花は、卵の花のこと。空木(枝の断面は中空。)葉には星成毛。ザラツク。
100	エゾアジサイ	ユキノシタ科	落葉低木	沢筋に多い。青い花(萼)。
101	イワガラミ	ユキノシタ科	落葉蔓性本木	白い装飾花の萼は1枚ずつ。
102	ツルアジサイ	ユキノシタ科	落葉蔓性本木	白い装飾花の萼は3or4枚ずつ。
103	サルナシ	マタタビ科	落葉蔓性本木	和製キーウイ。葉光沢。葉裏の葉脈上に太くて堅い毛。別名コクワ
104	マタタビ	マタタビ科	落葉蔓性本木	葉には光沢無く一部が白化する。枝の随は中実。

☆コナラ（ブナ科：落葉高木）



樹3年生 鋸歯が浅くやや丸い。



直径38cm、幼樹直径4.0cm、10年生



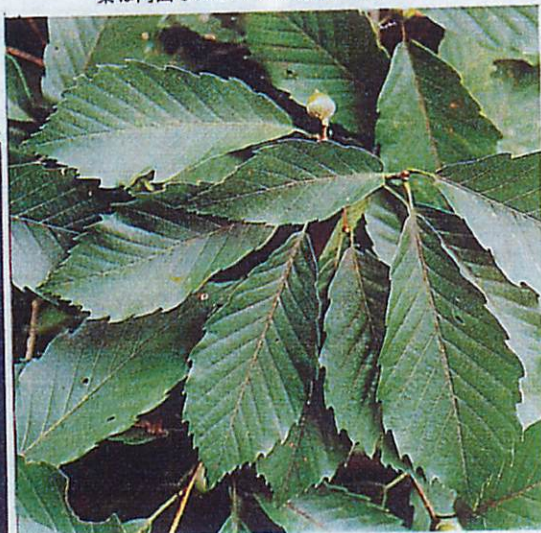
冬芽
頂生側芽
×1.6



雄花



幼樹
直径2.9cm
8年生
平滑・光沢がある。



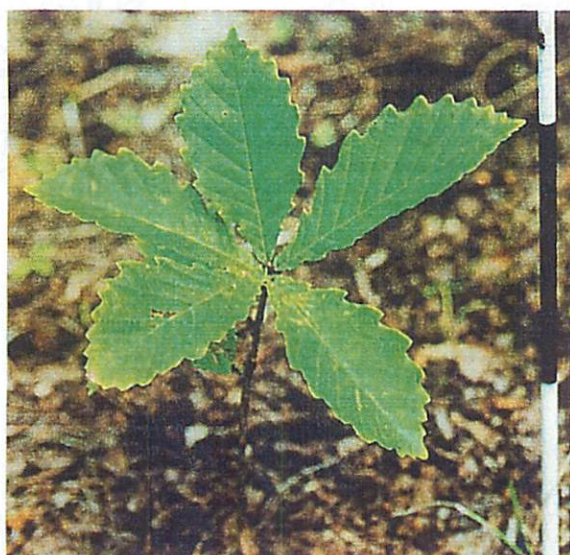
葉は内曲したとがった鋸歯、葉柄がある



分布・生育環境

北海道、本州、四国、九州（種子島まで）の温帯および暖帯に広く分布している。陽樹であり、充分な陽光が必要で林内ではほとんど発芽・生育しない。適潤で肥沃な緩傾斜地において最もよく生長するが、乾燥地にも耐え、尾根筋、斜面上部にも成立する。萌芽力が旺盛で、かつての新炭林や農用林としてクリ、クヌギ、シデ類などを混えた萌芽再生林として広く分布している。生長やや早い。中群生～混生する。

☆ ミズナラ (ブナ科：落葉高木)



稚樹 3年生 鋸歯が丸い



稚樹 5年生 鋸歯が鋭い

直径60cm 不規則に縦裂



葉縁には大きな鋸歯、葉柄は極めて短い



分布・生育環境

北海道、本州、四国、九州（高隈山まで）の温帯に広く分布し、温帯林を構成する代表樹種の一つである。陽樹であり、林内での稚樹の発生はほとんどない。適潤な肥沃な深い土壌を好み、谷あい、緩傾斜地、溪流沿い、湖畔などにおいて最も旺盛な生育をするが、純林を形成することが比較的少なく、混生林の構成樹種となっていることが多い。生長は早い。

類似種との区別点

樹種	葉	果実
ミズナラ	大形で単鋸歯または重鋸歯で三角形で尖る。葉のものは耳たぶ状で葉柄は短い	卵状楕円形で長さ1.5~2.5cm
コナラ	やや小形で単鋸歯、下面は長い軟毛が多く、灰白色、葉のものは楔形、葉柄4~15mm	円柱状長楕円形で長さ1.5~2.0cm

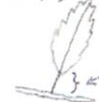


ミズナラ



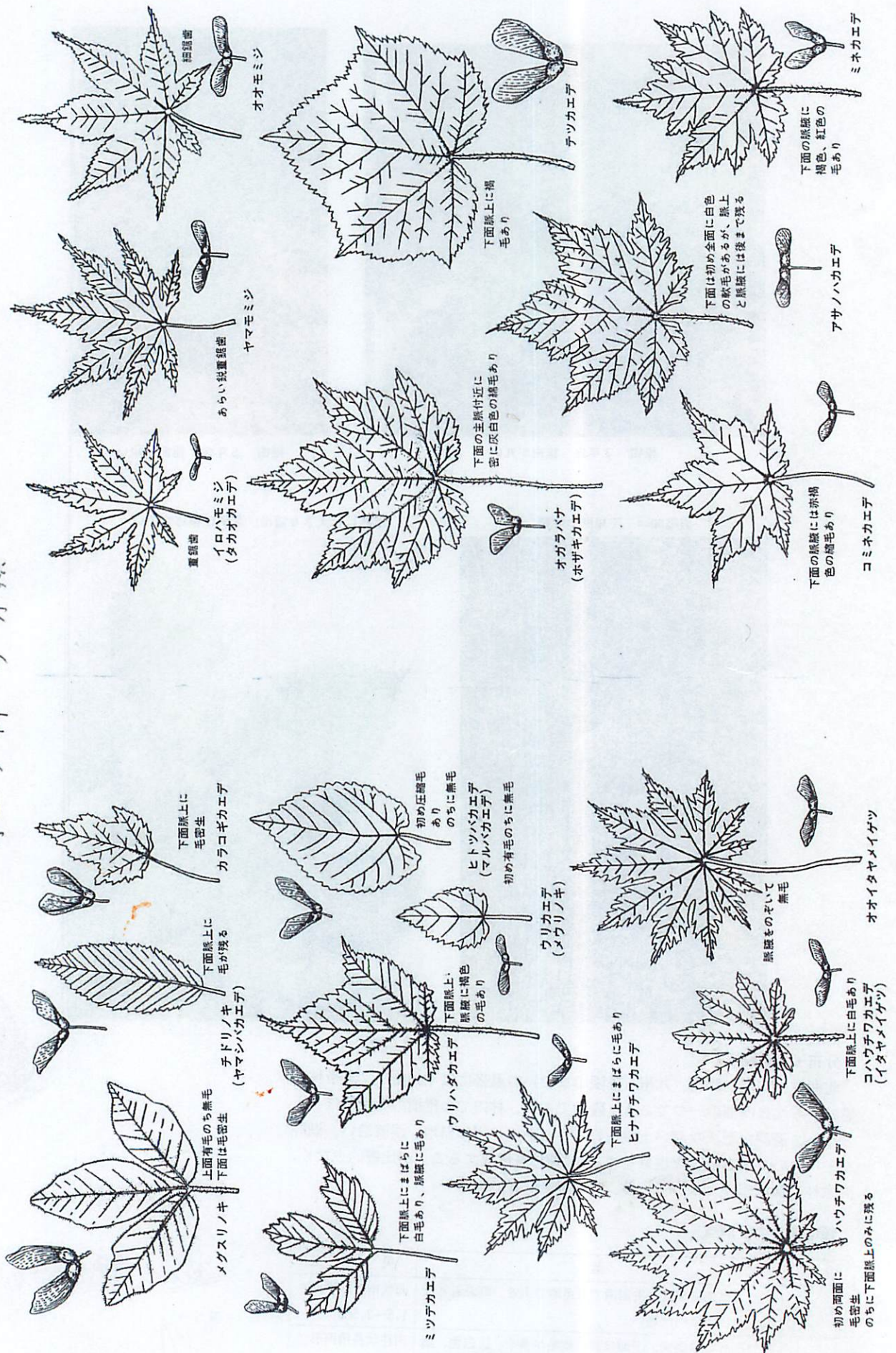
葉柄極短し。

コナラ



葉柄有り。

カエデ科の分類



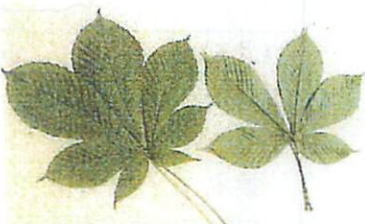
針葉樹 (葉が針状、または鎌状)

1.アカマツ (⑩、④) 赤松 (雌松ともいう) マツ科マツ属 樹高 20m以上	99	・ 識別容易 (山地に自生するマツはアカマツ) ・ 樹皮が赤っぽい。 ・ 葉では見分けが難しいが、クロマツの方が刃先がかたくてさわると痛い。 ・ 枝先の芽の色でも識別でき、アカマツは赤茶色で、クロマツは白っぽい。 ・ 名の由来は、ずばり幹の色から。	
2.スギ (29、⑧) 杉 スギ科スギ属 樹高 30m以上になる	108	・ 識別容易 (タテヤマ、マスヤマ、ボカなどのように地域名を冠した品種名が多い) ・ 日本一背が高くなる木も、日本一長寿の木もスギである。 ・ 葉は冬に赤っぽくなるが、春には緑色にもどる。 ・ 名の由来は、まっすぐ伸びる様子から。	

常緑広葉樹 (葉の縁が波打つ)

3.ソヨゴ (⑪、24) 冬青 モチノキ科モチノキ属 樹高 5~10m	290	・ 識別容易 (常緑のモチノキ類で、葉が小判型で縁がよく波打つことが特徴) ・ 秋には 3~4cm の長い柄がある赤い果実をつける。 ・ 名の由来は、葉の縁が波打ち、風に「そよぐ」ように見えることから。	
---	-----	---	--

落葉広葉樹 (葉が大きい)

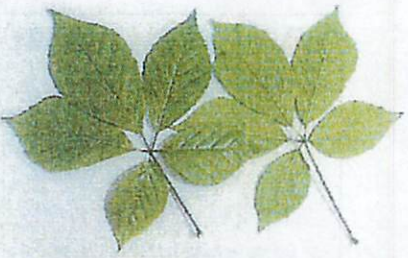
4.ホオノキ (⑫、⑦) 朴木 モクレン科モクレン属 樹高 20m以上	169	・ 識別容易 (葉の長さが 30~40cm と非常に大きいのでわかりやすい) ・ 単葉が枝先に集まってつくので、掌状複葉のトチノキと間違えやすい。 ・ 樹皮は白っぽい。 ・ 初夏に咲く白い花は大きくて甘い香り。 ・ 名の由来は、葉で食べ物を包む「包」から。	
5.トチノキ (34、⑩) 栃木 トチノキ科トチノキ属 樹高 20m以上	286	・ 識別容易 (大きな掌状複葉の代表格) ・ ホオノキと見間違えることがあるので要注意。 ・ 5~6 月に白い花が咲き、キャンドルのように見える。 ・ 栃の実は、あく抜きして栃餅やクッキーなどの食用にする。	

落葉広葉樹 (羽状複葉)

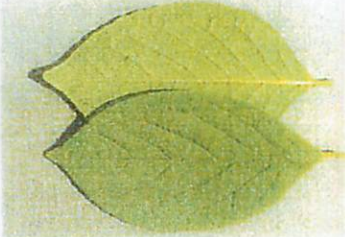
6.カラスザンショウ (35、30) 烏山椒 ミカン科サンショウ属 樹高 6~15m	265	・ 識別中庸 (大型の羽状複葉を持ち、枝を広く伸ばして逆三角形の樹形) ・ 先駆性樹木 (パイオニア・ツリー) の代表。 ・ 枝や幹、葉軸にもトゲがあることが特徴。 ・ サンショウの仲間なので、葉をちぎると強い香りがする。	
--	-----	--	---

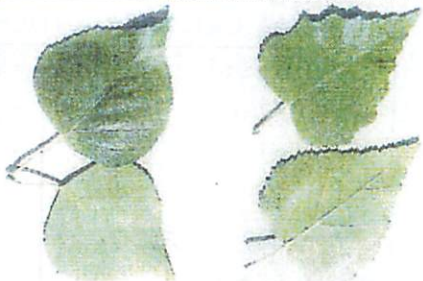
7.サワグルミ 126 (40, 33) 沢胡桃 クルミ科サワグルミ属 樹高 10m前後	・識別中庸 (オニグルミとの識別が難しい) ・大型の羽状複葉で、オニグルミよりも小葉がよりスマートで、毛も少ない。 ・樹の形は、オニグルミよりすらりとし、幹は直立する。果実は穂状で、食用にならず。 ・名の由来は、山地の河原や谷沿いによく生えることから。	
--	---	---

落葉広葉樹 (掌状複葉)

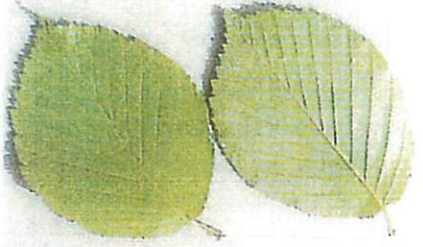
8.コシアブラ 327 (⑧, ⑬) 漉油 ウコギ科ウコギ属 樹高 10m前後	・識別容易 (5枚の掌状複葉を持つ、3枚の掌状複葉を持つタカノツメは頼成の森でみられる) ・新芽は特有の香味があって、タラノメと同様の食べ方をされる。 ・名の由来は、樹液をこして金漆 (こんせつ) と呼ばれる塗料油を採ったことに由来。	
9.マルバアオダモ 351 アオダモ類 (19, 34) 丸葉あおだも モクセイ科トネリコ属 樹高 5~10m	・識別中庸 (羽状複葉で、5枚が基本、3枚、7枚のものも見られる) ・アオダモの縁にははっきりした細かい鋸歯があるが、マルバアオダモには鋸歯がないことが多いので「丸葉」の名がある。 ・材は粘り強いので、野球のバットに使用。 ・「アオ」は枝を切って水につけると青白く光って見えること、「タモ」はトネリコのこと。	

落葉広葉樹 (樹皮で識別容易)

10.リョウブ 329 (④, 26) 令法 リョウブ科リョウブ属 樹高 3~10m (葉は枝の先端に束状)	・識別中庸 (葉は束状、樹皮は平滑で三毛猫状、材は緻密) ・葉先に近い方で葉幅が最大になる。しばしば葉柄や主脈が赤みを帯びる。 ・名の由来は、かつて救荒用に植樹を勧める令法 (りょうぼう) が出されたため。 ・若葉は食用になり、令法飯 (りょうぶめし) などにされる。	
11.ネジキ 342 (⑮, 39) 振木 ツツジ科ネジキ属 樹高 3~4m (葉は単葉、互生)	・識別容易 (樹皮の縦の裂け目がねじれているのですぐわかる) ・葉は縁がよく波打つ。裏面の葉脈のつけ根部分に白い毛が生える。 ・初夏にスズランのような白い花をつける。 ・名の由来は、幹のねじれ模様から。	
12.ナツツバキ 196 (26, 36) 夏椿、別名シャラノキ ツバキ科ナツツバキ属 樹高 10~15m (葉は単葉、互生)	・識別中庸 (6~7月に咲く径 5~7cm の清楚な白花か、まだら模様の幹で識別容易) ・葉の鋸歯が低いこと、葉脈は表面でくぼんで目立つこと、葉裏は葉脈が浮き出て全体に絹毛が生えることが特徴。 ・名の由来は、夏に花が咲くことから。	

13. シラカバ (36, ⑮)	140	・ 識別容易 (幹の白さが美しい木) ・ 葉はほぼ三角形で、ダケカンバと似ている。 ・ ダケカンバの樹皮は橙色を帯びる。 ・ 秋の黄葉も美しい。	
白樺 カバノキ科カバノキ属 樹高 10~20m (葉は枝の先に2枚束状)			

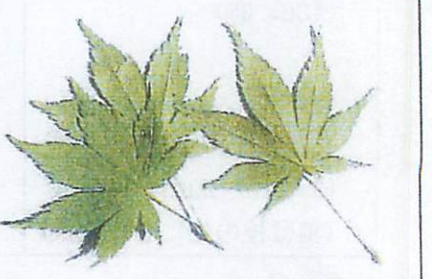
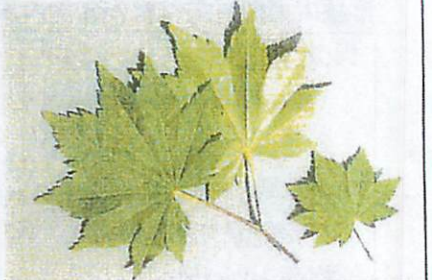
落葉広葉樹 (葉は枝の先端に束状につく)

14. アズキナシ (⑬, ⑳)	240	・ 識別中庸 (ウラジロノキに似ている。葉裏はさほど白くならず、重鋸歯も小さい) ・ 秋に長さ 1cm ほどの赤い実をつける。 ・ 枝に点状の模様 (皮目) が並ぶので、別名ハカリメという。 ・ <u>しばしば短い枝に葉が3枚ずつ束状につく。</u> ・ 名の由来は、<u>実が梨に似て小さいことから。</u>	
小豆梨 バラ科ナナカマド属 樹高 10~15m			
15. アオハダ (㉑, 28)	292	・ 識別容易 (シャクトリ虫みたいな短い枝先に束状に葉がつく) ・ 茶色の比較的平滑な樹皮を剥ぐと、内皮は緑色。 ・ 秋に赤い果実がなる。 ・ 名の由来は、<u>内皮の緑色から。</u>	
青膚 モチノキ科モチノキ属 樹高 7~8m			
16. ミズメ (32, 29)	142	・ 識別中庸 (葉っぱだけで識別は難しい、付き方は長枝に互生して短枝に2枚を束生) ・ 葉、枝をちぎるとサロメチールの臭いがするのが一番の特徴。 ・ 別名の「ヨグソ」は昔の人にとって不快な臭い、「ミネバリ」はヤシャブシの別名。	
別名: ヨグソミネバリ、 別名: アズサ カバノキ科 樹高 15~20m			
17. ウダイカンバ (33, ⑩)	143	・ 識別困難 (葉は丸いハート型、付き方は長枝に互生して短枝に2枚を束生) ・ 葉先は鋭く先端が伸びる。	
別名: サイハダカンバ カバノキ科 樹高 20~30m			

落葉広葉樹 (枝の片側に2枚ずつ互生してつく)

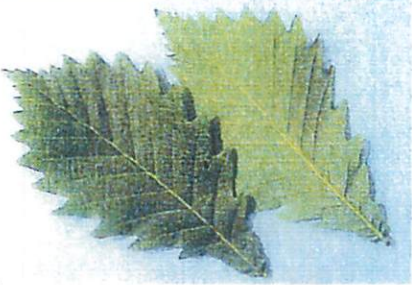
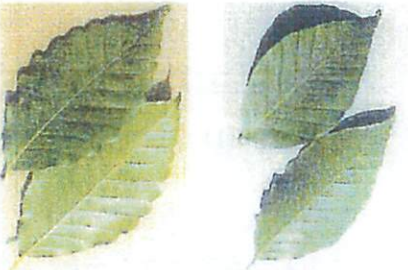
18. ケンボナシ (38, 35)	304	・ 識別困難 (葉は長卵形~広卵形) ・ 葉は単葉で、枝の片側に<u>2枚ずつ交互に互生する。</u> ・ 葉脚基部に太い<u>3本の主脈</u>が出る。 ・ 果実は肉質で甘みがあり、生食できる。 ・ 名の由来は、一部の方言で手棒梨 (テンボウナシ) といったものの転訛。	
クロウメモドキ科ケンボナシ属 樹高 20~25m			

落葉広葉樹（葉に掌状の切れ込みがある）

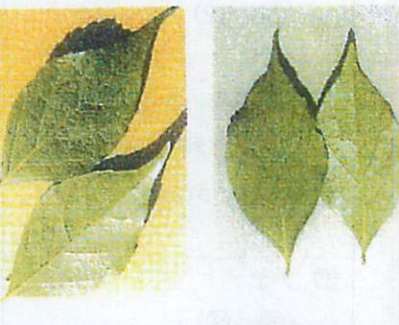
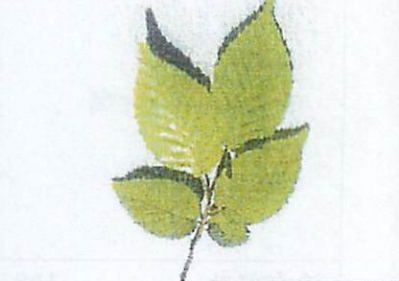
19.ヤマモミジ 276 (⑥、25) 山紅葉 カエデ科カエデ属 樹高 10m前後	・ 識別容易（裂片が5～7つある掌状の葉） ・ 主に日本海側に分布する。 ・ 同種のイロハモミジ、オオモミジとは見分けにくい。 ・ オオモミジの変種とされる。	
20.コハウチワカエデ 282 (⑨、⑩) 小羽団扇楓 カエデ科カエデ属 樹高 10m前後	・ 識別容易（カエデ類の中でも、葉の切れ込みの数が9～11と多い） ・ 同種の、ハウチワカエデ、イタヤメイゲツとの見分けが難しい。 ・ 鋸歯は小ぶりで、葉柄は葉身の1/2以上。 ・ 名の由来は、葉が天狗の羽うちわに似ることによる。	
21.ウリハダカエデ 278 (⑫、⑭) 瓜膚楓 カエデ科カエデ属 樹高 10m前後	・ 識別容易（カエデにしては切れ込みが浅く、表面積が大きい五角形の葉を持つ。樹皮は緑色に黒いしま模様が入り、成長するにつれ菱形の裂け目（皮目）ができる） ・ 名の由来は、若木の樹皮の緑色に黒いしま模様から。	
22.イタヤカエデ A176 イタヤ類 (⑬、⑥) 板屋楓 カエデ科カエデ属 樹高 15m前後	・ 識別中庸（葉はふつう5～7裂、縁に鋸歯がない全縁なのが大きな特徴） ・ 葉の形状には変異が多く、切れ込みが深いエンコウカエデ、切れ込みの浅いオニイタヤなどがある。 ・ 秋には鮮やかに黄葉。 ・ 名の由来は、樹冠を板ぶき屋根に見立てた。	
23.ハウチワカエデ 283 (25、38) 羽団扇楓 カエデ科カエデ属 樹高 10m前後	・ 識別容易（カエデ類の中でも、葉の切れ込みの数が9～11と多い） ・ 同種の、コハウチワカエデ、イタヤメイゲツとの見分けが難しい。 ・ 葉は同種の中で最も大きく、葉柄は葉身の1/2以下。 ・ 名の由来は、葉が天狗の羽うちわに似ることによる。	

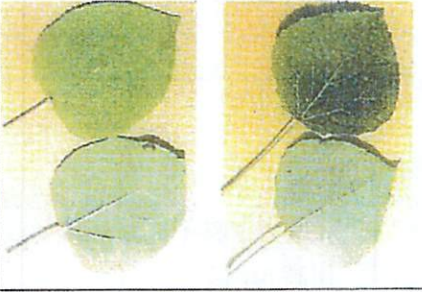
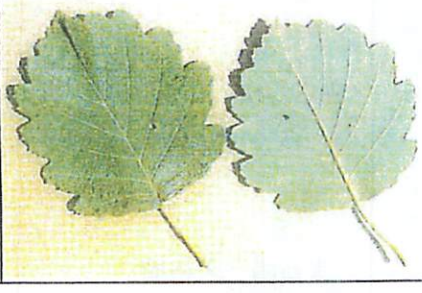
落葉広葉樹（葉が特徴的で、識別容易なもの）

24.コナラ 148 (①、①) 小櫨（県西部ではハウサ（柞）ともいう） ブナ科コナラ属 樹高 15m以上	・ 識別容易（ミズナラと類似、違いは葉柄がある） ・ 標高 400m以下の低標高帯。 ・ 県内の二次林では、本数、蓄積ともに No.1 ・ 雑木林では、切り株から萌芽して株立ち。 ・ 昔から、炭やシイタケの原木材として使われてきた。	
---	--	---

25.ミズナラ (②、②) 水楮 ブナ科コナラ属 樹高 15m以上	148	・識別容易（コナラと類似、違いは葉柄がない） ・標高 400m以上の中標高帯 ・県内の二次林では、本数、蓄積ともに No.2 ・英語ではレッドオーク、加工しやすいので家具や建築材等によく使われてきた。 ・名の由来は、水分を多く含むから。	
26.マルバマンサク (③、22) 丸葉満作（丸葉万作） マンサク科マンサク属 樹高 2～5m	201	・識別容易（マンサクと類似、違いはマルバマンサクは日本海側、マンサクは太平洋側） ・早春に黄色い縮れた花卉の花が咲く。 ・葉先が丸く、しばしば左右非対称。 ・名の由来は、春早くに花が「まず咲く」ため、あるいは枝いっぱいに花をつけるため。	
27.ブナ (⑤、③) 樺（櫟） ブナ科ブナ属 樹高 20m以上	147	・識別容易（葉の縁は波状、くぼんだ場所へ側脈が向かう） ・寒冷地の樹林を代表する木で、「森の女王」と呼ばれる。 ・樹皮は白くて滑らか、コケに似た地衣類が着生してまだら模様ができる。 ・名の由来は、実が食べられるので無難から。	
28.クリ (⑩、⑤) 栗 ブナ科クリ属 樹高 15mほど	154	・識別中庸（初夏の特有の匂いのする花や秋の果実に出会えば識別容易） ・側脈は 11～20 対で、平行して縁に達する。 ・同種のクヌギ、アベマキとの見分けが難しい。 ・鋸歯はクヌギと比べて、小ぶりでおとなしく、先端まで葉緑素があつて緑色である。	
29.ヤマボウシ (22、40) 山法師 ミズキ科ミズキ属 樹高 5～10m	322	・識別中庸（葉っぱでの識別は難しいが、花や果実を見れば識別容易） ・葉は円形～卵形で、5～10cm ほど。 ・葉脈は弧を描くように長く伸びる。 ・ミズキ属の葉は、葉柄をちぎると中の道管が白い糸のように伸びる。 ・名の由来は、梅雨期に咲く白花が清楚で美しく、4 枚花卉の花を法師に見立てた。	
30.ケヤキ (30、⑫) 欒 ニレ科ケヤキ属 樹高 20m以上	158	・識別容易（葉、樹皮、樹形のそれぞれに個性がある） ・鋸歯の先はとがるが、側面は弧を描いて丸くなることが特徴。 ・樹皮は歳を経てうろこ状にはがれる。 ・樹形は、美しい扇状やほうき状。 ・名の由来は、気高き木から。	

落葉広葉樹（単葉で互生）

31.ウワミズザクラ 220 (⑦、⑨) 上溝桜 バラ科サクラ属 樹高 15m前後	・ 識別中庸（小さな白花がブラシ状につくので花の時期に出会ったら識別容易、サクラの仲間で葉柄が 1cm 以下と短いことがポイント） ・ 名の由来は、この材の上面に溝をほって占いに使ったためといわれる。	
32.エゴノキ 349 (14、27) 野茉莉 エゴノキ科エゴノキ属 樹高 7~8m	・ 識別中庸（初夏に一斉開花した 5 弁の白い花、さくらんぼ状の実が付く時は識別容易） ・ 葉裏や葉柄、冬芽などに砂粒のような褐色の毛（星状毛）がある。 ・ 実はサポニンを含み、かつては石けんの代用にした。野鳥のヤマガラが好む。 ・ 名の由来は、実の「えぐい」味から。	
33.クマシデ 145 (21、31) 熊四手 カバノキ科クマシデ属 樹高 10m以下	・ 識別困難（アカシデ、イヌシデのシデ類の葉は目立った特徴が少ない） ・ 葉の大きさはクマ>イヌ>アカの順。 ・ 樹皮には浅いすじがある。 ・ 名の由来は、花や果実がしめ縄に飾る四手に見え、「クマ」は荒々しい姿のため。	
34.シナノキ 310 (23、⑩) 科木、級木 シナノキ科シナノキ属 樹高 15m以上	・ 識別中庸（葉っぱでの識別は難しいが、花の柄にへら状の苞葉がつくのが特徴） ・ 葉はハート形だが、やや左右不対称になることが多い。 ・ 葉柄は比較的長く、ふつう 4~5cm ある。 ・ 樹皮は浅く縦に裂ける。 ・ 葉裏の葉脈のわきに茶色っぽい毛の固まり。	
35.アカシデ 145 (24、⑪) 赤四手 カバノキ科クマシデ属 樹高 10m以下	・ 識別困難（イヌシデ、クマシデのシデ類の葉は目立った特徴が少ない） ・ 葉の大きさはクマ>イヌ>アカの順。 ・ 樹皮は滑らかで、縦向きの凹凸が出る。 ・ 名の由来は、花や果実がしめ縄に飾る四手に見え、「アカ」は若葉が赤くなるため。	
36.ヤマザクラ 225 (27、21) 山桜 バラ科サクラ属 樹高は 10~15m	・ 識別中庸（葉だけで何ザクラかを見分けるのは難しい） ・ 花と赤い葉が同時に開くのが特徴。 ・ オオシマザクラと同様、葉柄と冬芽は無毛。 ・ 樹皮は俗に「サクラ肌」と呼ばれ、黒光りする表面と横向きのしわ（皮目）が共通の特徴。	

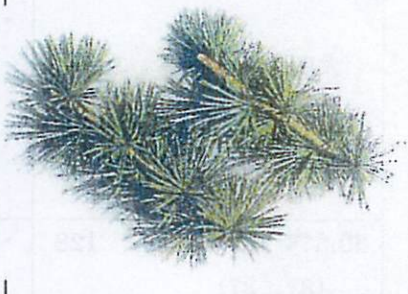
37.ミズキ (28, ⑩) 水木 ミズキ科ミズキ属 樹高 10~20m	320	・識別中庸（ミズキ属の葉は、弧を描くように長く伸びる葉脈が共通の特徴） ・樹形は、枝を面状に広げていくつもの階層をつくり、初夏に白花が咲く頃は遠くからでも見分けられる。樹皮は縦に浅く裂ける。 ・名の由来は、春に枝を折ると樹液が水のように出ることから。	
38.イヌシデ (31, 23) 犬四手 カバノキ科クマシデ属 樹高 10m以下	146	・識別困難（アカシデ、クマシデのシデ類の葉は目立った特徴が少ない） ・葉の大きさはクマ>イヌ>アカの順。 ・樹皮は白黒のしま模様が目立つ。 ・名の由来は、花や果実がしめ縄に飾る四手に見え、「イヌ」は使い物にならない意味。	
39.ヤマナラシ (37, 37) 山鳴 ヤナギ科ヤマナラシ属 樹高 20m以上	128	・識別中庸（葉は菱形～円形） ・ヤマナラシ属の葉柄は扁平なため、風で葉が揺れやすく、カラカラと鳴る。 ・樹皮は菱形の模様があり独特。 ・名の由来は、葉が風に揺れやすく、カラカラと鳴るため。	
40.ケヤマハンノキ (39, 32) 毛山榎木 カバノキ科ハンノキ属 樹高 15m前後	137	・識別中庸（葉は、シデ類、サクラ類、ムクノキに似るので、果実や花芽で見分ける） ・細長い花の穂が 12~3 月頃に開く。 ・2cm 弱の若い果実が数個ずつつく。 ・湿地の林を代表する木。 ・葉縁は山形の鋸葉があり、裏に毛が多い。	

- ・ 県下の標高 1,400m以下の地域で収集した 295 地点の毎木調査資料によると、40 科 63 属 103 種の樹種が記録された。
- ・ 富山県では古くから製炭業が行われ、特に戦前まで山村の人々は周囲の天然林を薪炭林として積極的に利用してきた。
- ・ そのため、山村周辺の天然林は、社叢林や雪持ち林等の例外を除いて、ほとんどが林齢 100 年以下の二次林である。
- ・ 人里に近い山間地では、炭や薪を採取ために繰り返し伐採されて成立してきた二次林が広く分布している。
- ・ 戦後の燃料革命以降、これらの森林は放置状態におかれ旧薪炭林とも呼ばれ、現在、約 50 年生付近に林齢のピークがある。
……「里山広葉樹二次林の取り扱い」より

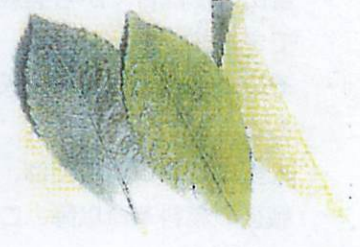
「参考文献」

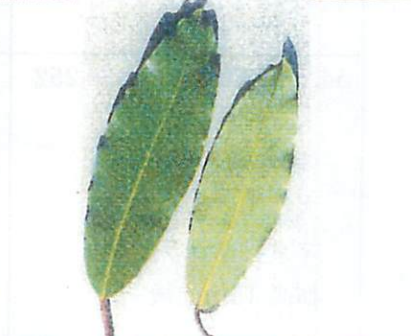
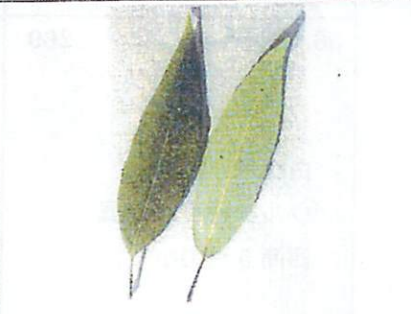
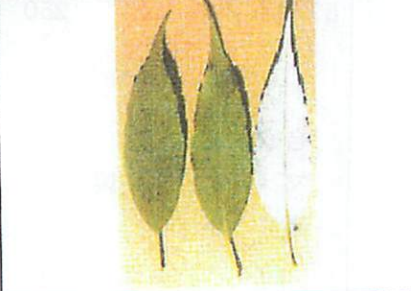
- 「富山県の天然林とその管理（基礎編）」：富山県林業技術センター研究報告 No.17（別冊）
- 「富山県の天然林とその管理（実践編）」：富山県林業技術センター研究報告 No.17（別冊）
- 「葉でわかる樹木（625 種の検索）」：馬場多久男著（信濃毎日新聞社）
- 「葉で見分ける樹木」：林将之著（小学館）
- 「検索入門 樹木①」：尼川大録・長田武正共著（保育社）
- 「検索入門 樹木②」：尼川大録・長田武正共著（保育社）

針葉樹 (葉が針状、または鱗片状)

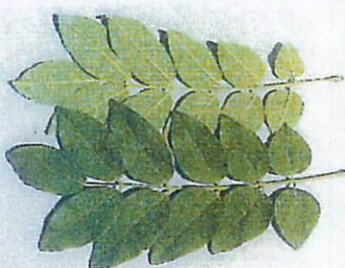
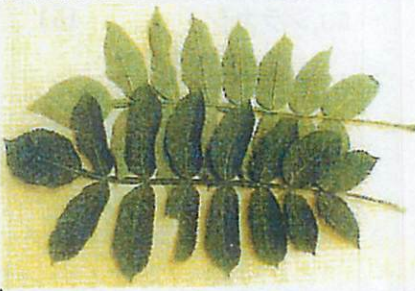
41.ヒノキ 116 檜 ヒノキ科ヒノキ属 樹高 25m以上	・識別容易 (うろこのような葉がヒノキ類の特徴、ヒノキは葉の裏に Y 字形の白い気孔線があるので識別可能) ・ヒノキ材は建築材として最高級。 ・富山では氷見市などを除いて、生育不良。 ・名の由来は、昔この木で火をおこしたから。	
42.カラマツ 96 唐松 別名: 落葉松 マツ科カラマツ属 樹高 20m以上	・識別容易 (針葉樹の中で唯一、秋に黄葉して落葉するので識別容易) ・葉の色は明るい緑色。 ・葉は先端では 1 枚ずつつくが、それより下で短枝に束生する。 ・寒冷地の先駆性樹木で、岐阜、長野、北海道に人工的に植栽された。	
43.イヌガヤ 121 犬樅 イヌガヤ科イヌガヤ属 樹高 5mほど	・識別容易 (針状の葉が枝に羽状につき、握ると痛いのがカヤで、これは痛くない) ・カヤの実には油を採ったり食用になるが、イヌガヤの実には食用に向かない。 ・変種のハイイヌガヤは多雪地に分布。 ・カヤに比べて有用性が低いので、「犬」の名がつく。	

常緑広葉樹

44.イヌツゲ 288 犬黄楊、犬柘植 モチノキ科モチノキ属 樹高 2~5m	・識別容易 (葉は 1~3cm とかなり小形なので見分けやすい) ・ツゲはツゲ科で葉は全縁で対生だが、イヌツゲは低い鋸歯があり互生。 ・日本海側に幹が地をほう変種のハイイヌツゲがある。 ・ツゲより材質が劣るので「犬」の名がある。	
45.ヒサカキ 198 枹 ツバキ科ヒサカキ属 樹高 2~5m	・識別中庸 (身近な林にごくふつうに生える) ・サカキもヒサカキも神木として神社の境内によく植えられる。 ・サカキの葉は丸身があるが、ヒサカキには鋸歯がある。葉先の先端がわずかにくぼむ。 ・秋に 1cm 弱の黒い果実になる。	
46.ユキツバキ 193 雪椿 ツバキ科ツバキ属 樹高 2mほど	・識別中庸 (ツバキ類の識別が難しい) ・ヤブツバキの変種で、日本海側に分布。 ・幹は地をほうように伸びる低木で、雪が多い土地に順応している。 ・葉はヤブツバキより鋸歯がやや鋭く、葉柄にはふつう毛がある。	

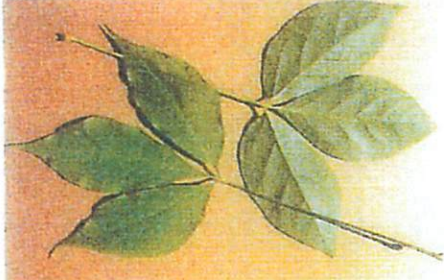
47.ヒメアオキ 319 姫青木 ミズキ科アオキ属 樹高 2~3m	・ 識別容易（雄株と雌株があり、雌株は冬に赤い実をつける） ・ 日本海側に多くて、アオキの変種とされる。 ・ アオキに比べて、小形で背が低い。 ・ 「アオキ」は枝や細い幹が青い（緑色）ため、「ヒメ」はちいさいため。	
48.エゾユズリハ 263 蝦夷護葉 ユズリハ科ユズリハ属 樹高 1~2m	・ 識別容易（細くてスマートな葉が枝先に集まって垂れ下がる姿が印象的） ・ 日本海側に多くて、ユズリハの変種。 ・ 「ユズリハ」の由来は、古い葉が新しい葉に世代を「ゆずる」ように見えるため。 ・ 子孫繁栄を象徴する縁起の良い木とされる。	
49.ヤブツバキ 193 藪椿 ツバキ科ツバキ属 樹高 3~8m	・ 識別中庸（ツバキ類の識別が難しい） ・ 冬に咲く赤い花が鮮やかである。 ・ 花期は 11~4 月と長い。花びらは半開きで丸ごと落ちる。 ・ 「ツバキ」の語源は、「厚葉木」、「艶葉木」が示すとおり、厚くてつやが強いことから。	
50.シラカシ 151 白樫 ブナ科コナラ属 樹高 15m以上	・ 識別中庸（カシ類の葉はどれもよく似ている） ・ 鋸歯はさほどとがらない。指でなぞってもあまり引っかからない。 ・ 名の由来は、材が白いため。材質が固いので、器具の柄などに用いられる。	
51.ウラジロガシ 152 裏白樫 ブナ科コナラ属 樹高 15m以上	・ 識別容易（カシ類の中で、細身の葉、裏がより白いことが識別のポイント） ・ 鋸歯は鋭くとがり、指でなぞると刺さる感じがする。 ・ 葉の縁はよく波打ち、葉全体にパリパリした質感がある。	
52.シロダモ 180 白だも クスノキ科シロダモ属 樹高 10mほど	・ 識別容易（葉の裏が粉を吹いたように白くなることが多い） ・ 葉脈が葉のつけ根近くで 3 本に分かれて長く伸びる三行脈（クスノキ属の特徴）が大きな目印。 ・ 葉は枝先に集まってつく。 ・ 裏面が白い。ちぎるとクスノキ科特有の香りが少しする。	

落葉広葉樹（羽状複葉）

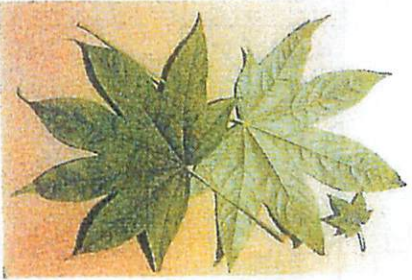
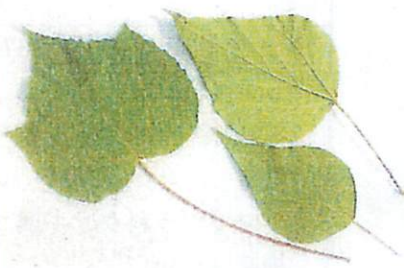
53.オニグルミ 125 鬼胡桃 クルミ科クルミ属 樹高 8m前後	・ 識別中庸（サワグルミとの識別が難しいが、サワグルミの方が多い） ・ 大きな羽状複葉で、小葉は重なり合うほどに横太りする。 ・ 葉裏、葉柄、葉軸には褐色の毛が多く、さわるとよくざらつく。	
54.イヌエンジュ 252 犬槐 マメ科クララ属 樹高 15m前後	・ 識別中庸（ニセアカシアと呼ばれるハリエンジュとの識別がむずかしい） ・ ニセアカシアは北米原産で砂防用に各地で植えられて広く野生化した。 ・ 山地に分布するイヌエンジュは日本原産。 ・ 小葉の幅がやや広くて、葉先がとがる。	
55.ナナカマド 238 七竈 バラ科ナナカマド属 樹高 6～10m	・ 識別中庸（羽状複葉だが、似たものとの識別がむずかしい） ・ 鋸歯は細かいが、よくとがる。 ・ 夏頃にほぼ形成される冬芽は、1.5cm 前後と大きくて赤くとがり、時にやや粘る。 ・ 赤い果実や紅葉が鮮やか。 ・ 名の由来は、7 回かまどに入れても燃え残ると言われていることから。	
56.ヌルデ 269 白膠木 ウルシ科ウルシ属 樹高 5～10m	・ 識別容易（羽状複葉で、葉軸に翼があるので識別容易） ・ 先駆性樹種の代表格。 ・ うるし科なので、紅葉もきれいだが、ヤマウルシやハゼノキのようにかぶれることは少ない。 ・ 名の由来は、樹液を器具などに塗ったから。	
57.ネムノキ 250 合歓木 マメ科ネムノキ属 樹高 10m前後	・ 識別容易（小さな小葉が無数に並んだ独特の形と、独特の花で識別容易） ・ 小葉の数は偶数で、2 回羽状に並んでつので、2 回偶数羽状複葉と呼ばれる。 ・ 日が暮れると葉を閉じて眠る。 ・ 先駆性樹種の一つ。 ・ 名の由来は、夜になると葉を閉じて眠ったようになることから。	
58.フジ 258 藤 マメ科 ツル性	・ 識別容易（落葉の右巻きツル性木本） ・ 樹木にからまるツルだけをみれば難しいが、フジは奇数羽状複葉で互生、クズは 3 出複葉で互生。 ・ 紫色の花とナタマメのような果実を見れば、一目瞭然。	

59.ヤマウルシ 271 山漆 ウルシ科ウルシ属 樹高 2~5m	・識別中庸（林内でヤシの木のような羽状複葉の低木を見たら要注意） ・樹木観察の際には、かぶれる木として、最初に説明した方がよい。 ・ハゼノキよりもかぶれる作用が強い。 ・葉柄はふつう赤い。 ・つけ根の小葉は小さく丸い。	
60.タラノキ 323 梔木 ウコギ科タラノキ属 樹高 2~6m	・識別中庸（タラノメの木として有名） ・木全体にトゲが多い。 ・大きな複葉を幹に直接つける。 ・冬に葉が落ちると、トゲの生えた棒だけの姿になる。	

落葉広葉樹（掌状複葉）

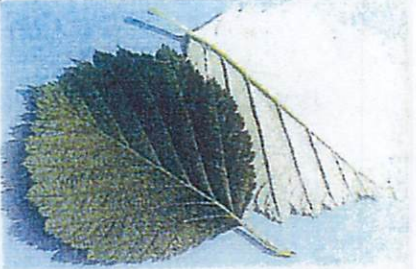
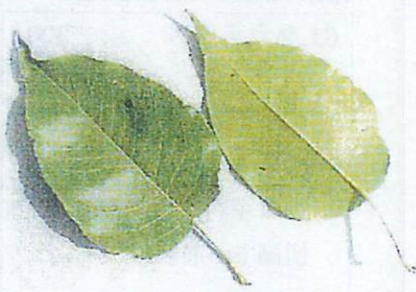
61.タカノツメ 328 鷹爪 ウコギ科タカノツメ属 樹高 5m前後	・識別容易（コシアブラに似るが、小葉は三出複葉） ・砺波市頼成の森には、5枚のコシアブラと3枚のタカノツメが共存する。 ・冬芽が大きく、鷹の爪のように見える。 ・若葉は食べられ、黄葉もきれい。	
62.ミツバツツジ 335 三葉躑躅 ツツジ科ツツジ属 樹高 2m前後	・識別中庸（ミツバツツジ類は種類が多くて見分けにくい） ・本州の日本海側は、ユキグニミツバツツジが多い。	

落葉広葉樹（掌状切れ込み）

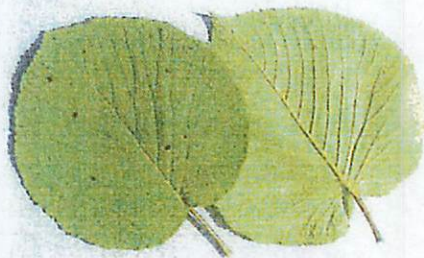
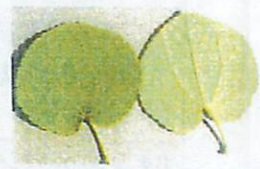
63.ハリギリ 328 針桐 別名：センノキ ウコギ科ハリノキ属 樹高 20m以上	・識別中庸（葉がきれいな掌形になるので、ハウチワカエデやイタヤカエデと間違えやすい） ・カエデ類は対生、ハリギリは互生なので区別できるが、葉が枝先に集まってつくので確認しづらい。 ・樹皮は縦に深く裂ける。	
64.アカメガシワ 261 赤芽柏 トウダイグサ科 アカメガシワ属 樹高 5~15m	・識別容易（浅く3つに裂ける葉形と、赤くて長い葉柄が特徴） ・先駆性樹種。 ・成木になるにつれて、葉の裂け目は次第になくなり、角が丸くなる。 ・葉が似ているウリノキは暗い林内に生える。 ・名の由来は、新芽が赤いことから。	

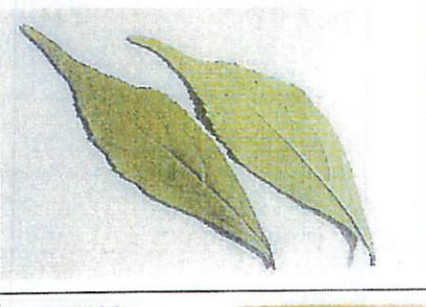
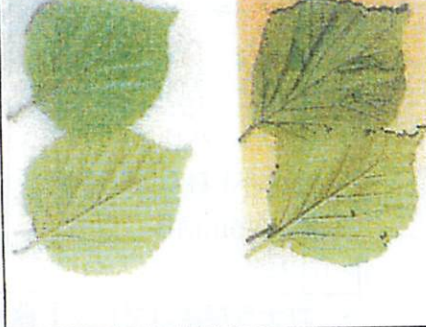
65.ウリカエデ 274	・ 識別中庸 (3 裂カエデ類の中で識別が難しい) ・ 他に、トウカエデ、ハナノキの葉が 3 裂する。 ・ ふつう 3 裂するが、5 裂する葉、裂けない葉も多い。 ・ 樹皮は、ウリハダカエデと瓜二つ。	
瓜楓 カエデ科カエデ属 樹高 15m前後		

落葉広葉樹 (短枝に葉が束状につく)

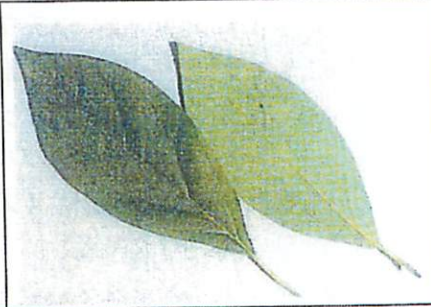
66.ウラジロノキ 240	・ 識別中庸 (山切りカットの葉縁で、葉の裏は白い) ・ 大きな山形の重鋸歯があり、ヤマハンノキとよく似ている。 ・ 短枝に、葉が 3 枚ずつつくことが多い。 ・ 初夏に梅に似た小さな白花が咲く。 ・ 秋には、長さ 1cm ほどの赤い果実をつける。	
裏白木 バラ科ナナカマド属 樹高 10~15m		
67.ヤマナシ 249	・ 識別困難 (葉の特徴は少ない) ・ 葉の付き方は、単葉で長枝に互生し、短枝に束生する。 ・ 花は 4 月に白い花がたくさん咲く。 ・ 小さな梨のような果実がつく。	
山梨 バラ科 樹高 10~15m		

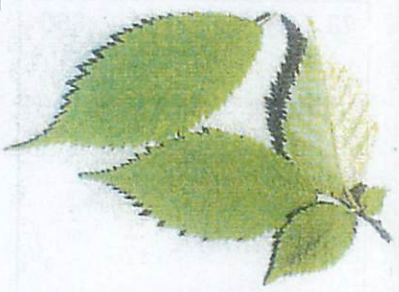
落葉広葉樹 (葉が単葉で、対生)

68.オオカメノキ 376	・ 識別容易 (葉はほぼ円形で、15cm 前後と大きい) ・ 葉のつけ根はハート形にくぼむ。 ・ 5~6 月に白い花が咲き、秋に赤く熟す。	
大亀木 別名: ムシカリ スイカズラ科ガマズミ属 樹高 2~4m		
69.カツラ 183	・ 識別中庸 (葉はハート形~ほぼ円形) ・ 縁の鋸歯はフリルのような波形でやさしい感じ。 ・ この形で対生するのはカツラだけ。 ・ 秋の黄葉は鮮やか。 ・ 名の由来は、新鮮な落ち葉はカaramelのような甘い香りを発し、「香出かづ」から。	 
桂 カツラ科カツラ属 樹高 20m以上		
70.クサギ 367	・ 識別中庸 (葉はハート形に近い三角形~卵形) ・ カメムシの臭いにも似ているが、「ピーナッツのようないいにおい」と感じる人もいる。 ・ 花は真夏に咲き、長いおしべとめしべが特徴。 ・ 名の由来は、独特の臭いから。	
臭木 クマツヅラ科クサギ属 樹高 3~6m		

71.タニウツギ 379 谷空木 スイカズラ科 タニウツギ属 樹高 3~5m	・ 識別中庸（類似種が多く、葉だけでの識別はむずかしい） ・ 明るい場所に生え、薄い紅色の花で識別が容易になる。 ・ 葉の裏全体に白い毛が密生する。 ・ 「空木」の名は、幹の中央が白いスポンジ状で中空だから。	
72.ノリウツギ 210 糊空木 ユキノシタ科 アジサイ属 樹高 3m前後	・ 識別中庸（葉の特徴は少ない） ・ 似ているハコネウツギやアジサイ類との区別点は、葉柄が2~4cmと長い点、表面にややかたい毛が散生する点である。 ・ 葉は枝の上部でしばしば3輪生。 ・ 名の由来は、樹皮から糊が採れ、紙すきに用いたから。	
73.ムラサキシキブ 366 紫式部 クマツヅラ科 ムラサキシキブ属 樹高 3m前後	・ 識別中庸（葉の特徴は少ない、ムラサキシキブ類は葉先が<u>いずれも長く突き出る</u>） ・ 秋に熟す鮮やかな<u>紫色の果実</u>を見れば識別は簡単。 ・ 名の由来は、美しい<u>紫色の果実</u>を平安時代の女流歌人紫式部に例えたことによる。	
74.ガマズミ 373 莢ずみ スイカズラ科 ガマズミ属 樹高 2~3m	・ 識別中庸（ガマズミ類の識別は難しい） ・ 葉柄が1~2cmと長い（コバノガマズミの葉柄は5mm以下と短い） ・ 最下部の葉脈はしばしば縁に向かって分岐することが特徴。 ・ 初夏に白い小花が咲き、秋には赤い果実をつけ、その果実は甘酸っぱく食べられる。	

落葉広葉樹（葉が単葉で、互生）

75.オオバクロモジ 175 大葉黒文字 クスノキ科クロモジ属 樹高 2~5m	・ 識別容易（葉よりは、緑色の枝に黒い文字のような模様があって識別容易） ・ 葉は枝先に集まってつく。 ・ 葉や枝をちぎるととてもよい香りがする。 ・ 香りがよいので、和菓子等の高級楊枝の原材料となる。	
76.サワシバ 146 沢しば 別名：サワシデ カバノキ科クマシデ属 樹高 10m以上	・ 識別困難（シデ類との識別が難しい） ・ 葉はクマシデによく似る。 ・ 葉幅はより広く、葉のつけ根が深くハート形にくぼむ	

77.タムシバ 165 喘柴 モクレン科モクレン属 樹高 10m前後	・ 識別中庸（白い花が特徴的だが、コブシと見分けが難しい） ・ 葉の特徴は少。枝を折ると強い芳香あり。 ・ モクレン科の木は、葉がつく枝の部分に、はちまき状に枝を一周する線（托葉痕）があることが共通の特徴。 ・ コブシは花のすぐ下に小さな葉が1枚つく。	
78.タンナサワフタギ 351 丹那沢蓋木 ハイノキ科ハイノキ属 樹高 2~5m	・ 識別困難（カマツカやナツハゼなどと識別が難しい） ・ 葉は倒卵形（葉先に近い部分で葉幅が最大）で、互生（カマツカは束生）する。 ・ 葉の表面に毛があつてざらつき、葉脈はくぼむ感じが目立つ。 ・ 名の由来は、やや湿った場所に生え、沢をふさぐから。	
79.アサダ 144 あさだ カバノキ科 樹高 15~20m	・ 識別困難（葉は特徴が少なく、シデ類、サクラ類、ムクノキの葉に似る） ・ 花や実はクマシデに似る。 ・ 花は緑の髪カザリ状。	
80.ハンノキ 135 榛木 別名：ハリノキ カバノキ科ハンノキ属 樹高 15m前後	・ 識別困難（葉は特徴が少なく、シデ類、サクラ類、ムクノキの葉に似る） ・ ほぼ一年中つく果実や花芽での識別がポイント。 ・ 2cm 弱の若い果実が数個ずつつく。 ・ 樹皮は縦に裂ける。	

- ・ コナラ群落（プロット数=166） コナラ、アカマツ、ミズナラ、クリ、ホオノキ、ウワミズザクラ、コシアブラ、イタヤ類、ケヤキ、ウリハダカエデ、リョウブ、ソヨゴ、イヌシデ、アカシデ、アオハダ、エゴノキ、コハウチワカエデ、ヤマザクラ、ミズキ、マルバマンサク、その他
- ・ ヤマツツジ-アカマツ群集（プロット数=14） アカマツ、コナラ、アカシデ、ソヨゴ、ミズナラ、アオハダ、コシアブラ、シナノキ、アルバマンサク、ヤマザクラ、コハウチワカエデ、ミズキ、ヤマボウシ、ナツツバキ、ホオノキ、アサダ、ウラジロノキ、ネジキ、アズキナシ、エノキ、その他
- ・ ブナ-ミズナラ群落（プロット数=80） ミズナラ、ブナ、コナラ、クリ、イタヤ類、アカマツ、スギ、ウダイカンバ、ホオノキ、ウリハダカエデ、トチノキ、ウワミズザクラ、シラカバ、シナノキ、マルバマンサク、コシアブラ、コハウチワカエデ、アズキナシ、ヤマモミジ、クマシデ、その他

……「里山広葉樹二次林の取り扱い」より

「参考文献」

- 「富山県の天然林とその管理（基礎編）」：富山県林業技術センター研究報告 No.17（別冊）
- 「富山県の天然林とその管理（実践編）」：富山県林業技術センター研究報告 No.17（別冊）
- 「葉でわかる樹木（625種の検索）」：馬場多久男著（信濃毎日新聞社）
- 「葉で見分ける樹木」：林将之著（小学館）
- 「検索入門 樹木①」：尼川大録・長田武正共著（保育社）
- 「検索入門 樹木②」：尼川大録・長田武正共著（保育社）

メ

モ

紹介樹木図鑑

図鑑名	発行所	大きさ	定価(各)	特徴
葉でわかる樹木	信濃毎日新聞社	A5 : 404 頁	3,360 円	625 種記載 葉の検索図・写真
花実でわかる樹木	信濃毎日新聞社	A5 : 407 頁	3,675 円	951 種記載 花と実から検索
冬芽でわかる落葉樹	信濃毎日新聞社	A5 : 288 頁	2,625 円	400 種記載 冬芽から検索
日本の野生植物木本(フィールド版)	平凡社	B6 : 811 頁	7,140 円	コンパクトな専門書 検索最優秀
日本の野生植物木本Ⅰ、Ⅱ	平凡社	携帯不向	18,000 円	詳細に記載、自宅用
検索入門樹木①、②、③	保育社	3 冊	1,890 円	簡易検索付 携帯便利
樹に咲く花Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	山と溪谷社	3 冊	3,780 円	写真豊富
山溪カラー名鑑日本の樹木	山と溪谷社	携帯不向	4,940 円	写真がきれい 自宅用
落葉樹の葉	山と溪谷社	447 頁	3,150 円	539 種記載 葉の拓本で紹介
原色日本植物図鑑木本編Ⅰ、Ⅱ	保育社	携帯不向	9,870 円	絵図鑑 専門書
原寸イラストによる落葉図鑑	文一総合出版	372 頁	2,625 円	緻密な葉の白黒イラスト